



逆くしゃみってなに?

どんな
病気?

クシュンと外に息を出すくしゃみとは逆に、息を吸いこみながら鼻を鳴らす症状
ホコリやニオイなど外からの刺激に対し、正常な反応として起こることが多いですが、
上気道の一部(鼻腔、鼻咽頭、咽頭)や口の中の病気、先天的な構造がきっかけになることも。

原因

逆くしゃみは、鼻咽頭の粘膜に何らかの刺激を受けると起こる反射行動で、
鼻咽頭に刺激を与えるものには、おもに2つあります。

原因1 /

外からの刺激

ハウスダストマイトやホコリなどが刺激になって、
逆くしゃみが反射的に起こることがあります。この場合は、病気との関連はなく、
正常な体の反応だと考えていいでしょう。

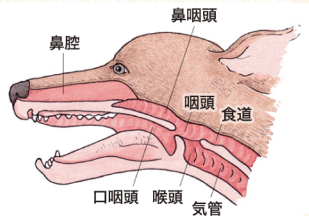
- ハウスダストマイト
- 空気中のホコリや花粉
- 香水や洗剤の強いニオイ
- タバコの煙など有害物質を含む煙
- がっついて食べたときのゴハン
- 水をはがぶ飲みしたとき
- 室内と屋外の寒暖差といった温度変化 など

原因2 /

上気道の病気

鼻咽頭炎や鼻炎などの病気で分泌される粘度の高い鼻水、鼻の中の異物、
腫瘍などが刺激に。また、短頭種では先天的に鼻の構造が特殊で、
逆くしゃみが起きやすいケースも。

- 感染性鼻咽頭炎
- リンパ形質細胞性鼻炎
- 歯周病などによる鼻腔内の病気
- 慢性特発性鼻炎 など



検査
は?

問診や身体検査とともにまず行うのは、
X線検査と血液検査です。

〈検査チャートの一例〉

麻酔不要の検査を実施

- 問診 ● 身体検査 ● X線検査 ● 血液検査
- (場合によって)PCR検査

- ときに異常がなかった
- 頻度も低く、ほかの症状がない

- 異常がある
- 異常は見つからないが、
● 鼻腔内疾患の可能性あり
- 診断をつけたい

経過
観察

対症療法

- ネブライザー療法
- きっかけ、刺激と
なるものを避ける

麻酔が必要な 検査を実施

- 鼻鏡検査
- CT検査

治療
は?

病気の治療とともに、
ネブライザー療法を併用。

生涯治療が必要な慢性特発性鼻炎では、副作用が少
ないなどのメリットから、抗生物質などを直接炎症
部位に届けられるネブライザー療法が適しています。
また、リンパ形質細胞性鼻炎では抗炎症剤や免疫抑
制剤の内服治療を行う、鼻腔内・鼻咽頭腫瘍では腫
瘍の摘出手術をするなど、ほかの治療が必要なことも
あります。



いぬに多い病気、そこが知りたい! は「いぬのきもち」で連載中!

●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと
2号 (2ヶ月分) **無料!!**